フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会（第25期・第12回）
議事要旨

1　日　時　2023年8月2日(水)10:00～12:35

2　方　法　オンライン開催（Zoom）

3　出　席

委員：沖大幹、小池俊雄、三枝信子、春山成子、植松光夫、江守正多、大手信人、春日文子、神原咲子、香坂玲、近藤康久、杉原薫、谷口真人、氷見山幸夫、福士謙介、村山泰啓、渡辺知保

事務局：齊藤美穂、稲元祥吾

欠　席：小林傳司、髙村ゆかり、馬奈木俊介、狩野光伸、蟹江憲史、近藤昭彦、竹中千里、中村尚、古谷研、安成哲三

4　議題等

1）前々回、前回議事録の確認

2）学術フォーラム「地域の課題解決を地球環境課題への挑戦に結びつける超学際研究」(2022年10月9日開催)について

3）最近の国内外のFuture Earthの状況について

- FE推進連携委員会活動報告（沖 大幹）
- 持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会報告（氷見山幸夫）
- フューチャー・アース国内連携分科会報告（江守正多）
- ６月のAssemblyについて（谷口真人）
- 国際事務局の活動について（春日文子）
- 未来の学術振興構想「持続可能な地球社会像の構築」（石井励一郎）

4）26期への引継ぎ文書について

- ブレイクアウトセッションによる引継ぎ文書についての討論

5）その他

5　配布資料

資料1-1：前々回議事要旨（第25期・第10回）
資料1-2：前回議事要旨（第25期・第11回）
資料2-1：学術フォーラム事後報告
資料2-2：学術フォーラムフライヤー
資料3-1：FE推進連携委員会活動報告(案)
資料3-2：持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会報告
資料3-3：フューチャー・アース国内連携分科会報告
資料3-4：FE Assembly報告
資料3-5：Future Earth動向
資料3-6：未来の学術振興構想「持続可能な地球社会像の構築」
資料4：　26期への引継ぎ文書(案)

６　議事内容

1）前々回、前回議事録の確認

沖委員から議事録について資料 1-1、1-2 に基づき説明があった。修正点はなかった。

2）学術フォーラム「地域の課題解決を地球環境課題への挑戦に結びつける超学際研究」(2022 年 10 月 9 日開催)について

三枝委員から資料 2-1、2-2 に基づき学術フォーラムの開催について報告があった。当日はオンライン開催により広範囲の参加者が集まった点、１時間のパネルディスカッションを２件行う形は時間配分としても適切であり密度の高い議論ができた点などが良かったなどの意見が述べられた。

3）最近の国内外の Future Earth の状況について

資料 3-1～3-3 に基づき、沖委員長から FE 推進と連携に関する委員会について、氷見山委員から持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会について、江守委員からフューチャー・アース国内連携分科会についてそれぞれの活動報告が行われた。氷見山委員からは、担当分科会において公開ワークショップや学術フォーラムを活発に開催し、持続可能性科学と教育人材育成を中心に議論した内容が説明された。また学術フォーラム「SDGs の達成に資する ESD カリキュラムの開発」(2023 年 8 月 20 日開催)の案内があった。江守委員からは、フューチャー・アース日本サミットへの関与を中心に活動した経緯が説明された。国内連携分科会については、学術会議と社会との連携の象徴として 26 期でも活動を続けることが望ましいなどの意見が出された。

谷口委員からは、資料 3-4 に基づき６月に開催された Assembly について詳しい報告があった。今回は持続可能性研究とイノベーション会議（SRI）と合同で行われたこともあり、人文学（humanities）のセッションが増えたこと、生物多様性条約（CBD）に関する議論もあったこと、新興国・発展途上国（Global south）に関わる課題についても議論されたことなどについて意見交換が行われた。

春日委員からは、資料 3-5 に基づき国際事務局の活動について報告があった。FE の活動に参加するためのメンバーポータル(https://members.futureearth.org/)が開設されていることや、2024 年６月にフィンランドで開催予定の持続可能性研究とイノベーション会議（SRI2024）について紹介があった。SRI2024 はオープンであり、FE からも参加することが望ましいなどの意見が述べられた。

沖委員長からは、資料 3-6 に基づき、日本学術会議による「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の公募に対し、当委員会として「持続可能な地球社会像の構築」を取りまとめて提案した経緯が説明された。

4）26 期への引継ぎ文書について

４つのブレイクアウトセッションに分かれて 26 期への引継ぎ文書について討論を行った。グループ１からは、国内連携分科会は TD 研究実践の場として存在価値があること、日本はアジアの FE コミュニティに対して積極的な役割を担うべきであることなどが報告さ

れた。グループ２からは、ステークホルダーの参加にはオブザーバなどの形で対応できること、特任連携会員を選任するためにはミッションを明らかにすることが必要であることなどが報告された。また、次期は社会科学系の委員にぜひ入ってもらいたいが、現行の連携会員改選の仕組みでは分野横断的な人を十分に選任できるようになっていないなどの問題意識も示された。グループ３からは、多様なバックグラウンドをもつ人という意味で「行政、民間、NGO 等の」という表現を入れるとよいなどの意見が報告された。グループ４からは、若手アカデミーからも委員になってもらうことが必要であるとの意見が報告された。

全体議論では、国内連携分科会よりもむしろ当委員会（親委員会）に非学術分野の特任連携会員を入れることにより、親委員会の議論が学術に閉じた内容になることを避けることができるなどの意見が述べられた。

最後に、本日の議論を反映した 26 期への引継ぎ文書の修正と学術会議への提出を、沖委員長に一任することが承認された。

5）その他

春日委員より、11 月 21 日に京都の地球研においてフューチャー・アース日本委員会主催のフューチャー・アース日本サミットを開催予定との案内があった。